25．しぶらの里－豊かな農村風景－

【ストーリー】

かつて江戸文化研究者の西山松之助氏は、著書の中で有年地区を「しぶらの里」と呼んだ。「しぶら」とはヒガンバナのことで、毒を持つが、毒を抜くことで救済作物となった。西山氏は緑の農村風景に映えるヒガンバナの豊かな色彩に魅せられたのであろう。

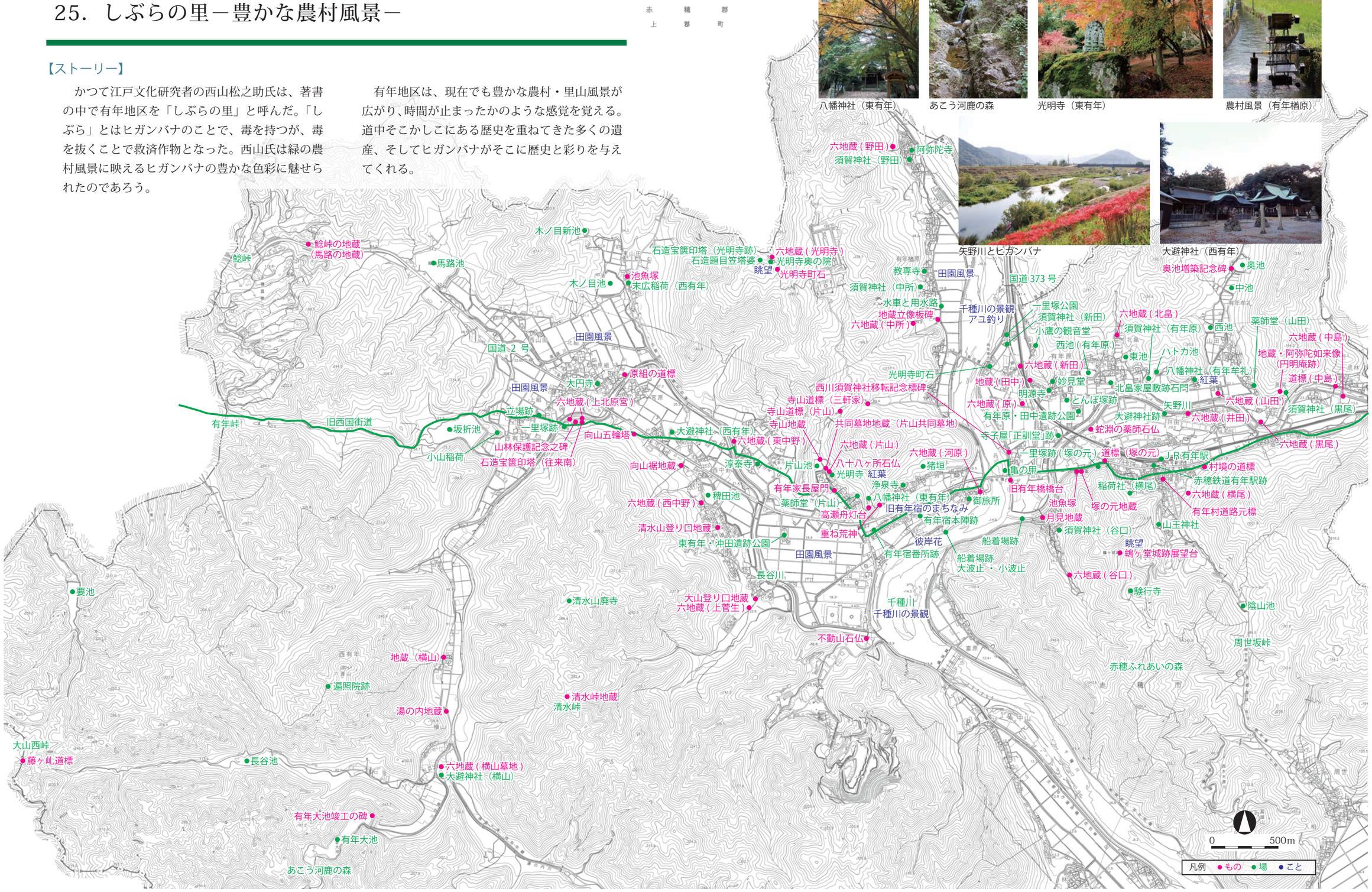
有年地区は、現在でも豊かな農村・里山風景が広がり、時間が止まったかのような感覚を覚える。道中そこかしこにある歴史を重ねてきた多くの遺産、そしてヒガンバナがそこに歴史と彩りを与えてくれる。

八幡神社（東有年）

あこう河鹿の森

光明寺（東有年）

農村風景（有年楢原）

矢野川とヒガンバナ

大避神社（西有年）